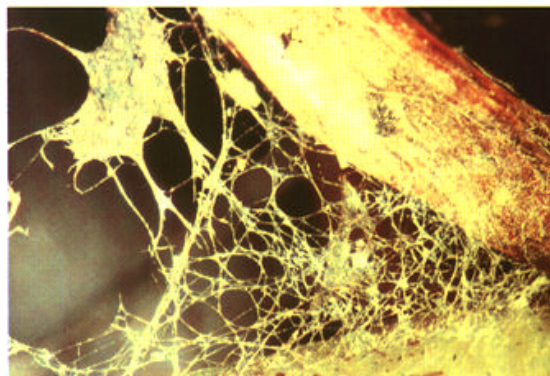


〈ヒペリクムくもの巣病〉



茎葉部の枯死



罹病株上のくもの巣状の菌糸

〈ヒペリクムくもの巣病〉

病原菌：Rhizoctonia solani Kühn

1. 症 状

母樹では新梢の中間～先端部及び小葉に不明瞭な褐色の病斑を生じ、やがて褐色の菌糸がくもの巣状に取り巻き、枝枯れを生じる。挿し木苗に発生すると立枯れるが、地下部から新芽を再生することがある。また被害植物体に褐色の菌核を多数形成する。

2. 生 態

上記、マツバギク立枯病、参照。

3. 防 除

- 1) 健全株から採種する。
- 2) 育苗施設内の過湿を避ける。
- 3) 発病株は直ちに除去する。
- 4) 母樹は過繁茂を避ける。

4. 記 事

本病は1993年10月、秋川市の母樹及び挿し木苗（施設）で発生した。